



あいじつ



開校 144周年

「ONE TEAM」

副校長 原島 謙一

2019年アジア発開催のラグビーワールドカップ日本大会の時には、「ONE TEAM」が、流行語大賞の候補になるほど瞬く間に日本中に広がりました。この時の日本チームは、6カ国の海外出身者が入り交じり「ワンチーム」を合言葉に結束力を高め、アイルランド、スコットランドを連破し、史上初のベスト8に進んだ戦いぶりに心を揺さぶられました。

ワンチームという言葉が世界に広まったのは、1995年の南アフリカ大会です。アパルトヘイト（人種隔離）撤廃後の自国開催で、南アフリカが初出場、初優勝を飾り、「ワンチーム、ワンカントリー」のチームスローガンが国内外で脚光を浴びました。

また、南アフリカは、2019年日本大会で、優勝し黒人初の主将コリシは優勝会見で、「僕たちの国にはいろいろな問題がある。いろいろな背景を持つ、いろいろな民族の選手が集まり、一つの目標に向かって一丸となり、国のために戦った。一つになれば何かを成し遂げられることを見せたかった」と言っています。

小学校にも、いろいろな個性をもった考え方や特性の違う子どもたちが通っています。しかし、同じ目標に向かって一丸になって取り組むことで大きなことができます。今回のスポーツフェスタは、まさにそんな場であったのではないかと考えています。

7月18日には、愛日小学校の伝統でもある愛日阿波踊り大会が行われます。その時にも、愛日小学校が「ONE TEAM」となって最高に素敵な姿が見せられたらと考えています。

個人面談について

個人面談担当 富樫 孝太郎

今年度からは、感染症の影響もほとんどなく、以前のようにお子さんの様子を見ていただくことのできる機会が増え、学校としては大変うれしく思っています。

7月に保護者の皆様と直接、お子さんの学校生活の様子や学習状況についてお話しする個人面談を設けさせていただきました。個人面談は、大変重要であり、学校と家庭とが協力してお子さんの学校生活を見守っていく上でも有意義であると考えています。

日程につきましては、本日、各学級より「個人面談日時のお知らせ」が配布になっていますのでご確認ください。短い時間にはなりますが、よろしく願います。

阿波踊りにについて

阿波踊り担当 石山 真理

コロナ禍以降、本格的に始動した愛日阿波踊り大会の季節がやってきました。6年生は、昨年度から少しずつ練習を重ね、着々と準備を進めています。7月より、全校でも本格始動していきます。伝統行事を引き継いでいくことは大変なことです。地域と学校を繋ぐ、大切な行事です。近年の異常気象により、熱中症の心配もありますが、たくさんの保護者の方にお手伝いいただき、今年も何とかやり遂げたいと思います。

保護者や地域の皆様の協力をいつも以上にいただく行事ですが、どうぞよろしくお願い致します。